

上新電機オーディオ試聴会 (2015.10.18)

—TAOC アクセサリーの試聴—

1. はじめに

上新日本橋 1 番館で開催された TAOC のアクセサリーの試聴会に行ってきました。試聴対象製品には興味がなかったのですが、Enigma Sopranino 用のスピーカー置台に関する情報を収集がてらに参加しました。

2. 使用機器

スピーカーは TAOC の FC-4500、アンプとプレイヤーはデノンで、アクセサリーは CSR シリーズのラック、インシュレーター、オーディオボードなどが使用されました。



3. 試聴会の進行

まずは、TAOC のオーディオ領域への進出の経過、材料となる鋳鉄とその特性の説明と開発とその進展などの話がありました。

鋳鉄も、通常の鋳鉄→グラデュエーションカーボン→ハイカーボン→アドバンスドハイカーボンと変遷してきており、カーボンの含有量や製法が進化してきているとのことでした。

試聴は、CSR と MSR のラックの比較から始まり DENON のプレイヤーを置き換えて音の違いを確認していきました。MSR は標準的な仕様で、CSR は棚板の中にハニカム構造を持たせ、そこに鋳鉄の粒子を封入し、棚板と下の受け板はスパイクのインシュレーターで受け、支柱には鋳鉄の粒子を封入し、機器の振動をラックに伝えないという思想で設計されています。最初に内田光子のピアノソナタ、次にベースの伴奏の入った女性ボーカルがかけられましたが、MSR は高額だけあって、音の滲みが消え、低域から高域

域まで透明感が向上し、質感も音場感も違ってくるのが分かります。

次に CSR はあまりに高額ということで、女性ボーカルの続きで MSR の上にボードを敷く実験を行いました。ボードは SUB シリーズの黒色の C タイプと黄色の W タイプがあって前者はジャズ系統、後者はクラシック向きということでした。MSR の上に C タイプを敷くと音は CSR の方向に変化し、クリーンで切れ味がよくなり、W タイプを敷くとウームで音場感が出てきました。

さらにインシュレーターの実験ということで、スパイク部が通常のグレード、プレート部がアドバンスドハイカーボンのセットになった TITE-35S を MSR の上に 3 点支持でプレイヤーを載せて変化を確認することになりました。このようなインシュレーターだけでも、CSR の方向に音が変わることがわかりました。実際に MSR から CSR に替え、ついで MSR に戻してインシュレーターを履かせる実験を行いましたが、MSR とインシュレーターの組み合わせは、CSR の印象からそれほど劣化しないという感じでした。

最後に、DENON のアンプも CSR に載せ替え、いろいろなジャンルの曲を次々とかけていきましたが、クリーンで透明度が高く、音場の見通しが良いという上記の印象は変わらず、これが TAOC の目指す音であるということが理解できました。

クラシックは最初のピアノの他は春の祭典とクラシックに近いのはパーカーションの入ったジブシーバイオリンだけでしたが、ピアノと春の祭典は良い印象でしたが、ジブシーバイオリンは若干弦の艶が不足し、メタリックになる傾向がありました。

総じてスピーカーの印象も含めると、透明感があって見通しと切れ味の良い音を好む向きには向いていることは間違いありませんが、適度なウェット感や艶を求めるクラシックにはもう少し確認が必要という印象でした。

なお、以上の TAOC 製品はオーディオメーカーやオーディオ誌の試聴室に数多く使われ、オーディオ機器の内部にも使用されているとのことでした。

解説者はソースの由来にも詳しく、熱意を持って TAOC 製品の特長を明快に説明していただき、非常に興味ある試聴会でしたが、音楽ジャンルの好みが少し当方と違っていたので、別の機会にじっくり聴いてみたいと思います。また、アナログプレイヤーではどうなるか興味のあるところです。

なお、Enigma Sopranino 用のスピーカー置台として TAOC 製品にはサイズや高さ的にマッチするものがなく、TIGLON 製品を選定しました。その結果は、追ってオーディオ実験室のスピーカーのページにおける Enigma Sopranino の活用シリーズで報告いたします。

以上